Bulletin of the Educational Research and Development, Faculty of Education, Kagoshima University
2014, Vol.23, 111-120

論 文

交流及び共同学習の在り方に関する実践的研究
－事前事後学習を大切にした取り組み－

高　野　秀　幸〔鹿児島県立串木野養護学校〕・片　岡　美　華〔鹿児島大学教育学部（障害児教育）〕

Practical study on a way of exchange activities and collaborative learning
：Seeking for valued pre and post-learning

TAKANO Hideyuki・KATAOKA Mika

キーワード：交流及び共同学習、児童の意識、事前事後学習、ＩＣＦ

Ⅰ　はじめに

2004年の障害者基本法の一部改訂により、「交流及び共同学習」という用語が初めて登場し、その後、小・中学校の学習指導要領や特別支援学校の学習指導要領の中にもこの用語が明記された（文部科学省，2008）。さらに、2010年１月に設立された「障がい者制度改革推進会議」においては、交流及び共同学習を推進することが求められ（内閣府，2010）、この教育の重要性は高まっている。この交流及び共同学習は、障害のある児童とない児童が同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場である。この点からも交流及び共同学習の必要性は高いと言える。

現在、我が国で行われている交流及び共同学習の実践は、実に様々な内容の交流及び共同学習が行われてきており、都道府県レベルや学校レベル等でその実践事例集を作成しているところがある（例えば宮城県、埼玉県や福岡県の筑後特別支援学校など）。しかし、それらの実践を概観すると、交流及び共同学習は、交流当日の活動のみに終始しており、事前事後学習について詳しく明記されている研究は未だ少ない。さらに、交流及び共同学習での事前事後学習は、平井・川原・荒巻（2011）によると、単発の学習を行うのではなく、計画的な事前事後学習を大切にするよう提唱されている。そして相手との関わり方や約束、マナー等を事前学習に盛り込むことで、相手のことに意識を向けながら交流及び共同学習を行うことができると述べている（平井ら，2011）。また、藤森・八尋（1995）は、論理的な思考が身につき始める小学校中学年頃からは、直接的な交流の経験だけではなく、「障害」などについて科学的な理解を育てる学習を行っていくことが大切であると指摘している。さらに、真城（2003）は、障害理解に関して、教師からの押しつけではなく、子どもたちが考える過程を経ることが、本当の理解につながると述べている。以上のことから、交流及び共同学習の事前事後学習について研究することは、交流及び共同学習の充実を図る上で必要であると考えた。

そこで、本研究では、交流及び共同学習の実践事例を取り上げ、交流及び共同学習の実際の活動だけではなく、その前後の事前事後学習の在り方も含めた交流及び共同学習の在り方について研究し、児童の障害に対する意識を把握した上で、効果的な交流及び共同学習の事前事後学習の実践の在り方はどうあるべきかを分析、検討した。なお、本稿は、第一著者の修士論文より、事前事後学習に関する部分を中心に再構成してまとめたものである。

Ⅱ　方　法

本研究では、児童への意識調査と事前事後学習を実施した。その実施の方法に関しては以下の通りである。

１　対象

T小学校の4年生（2学級）児童56名（男子29名、女子27名）。

２　調査期間

2012年10月１日～2012年11月30日。

３　手続き

児童の障害に対する意識を把握するためにまず、障害に関するアンケートを実施した。これに関しては、筆者がT小学校の４年生担任に依頼をし、交流及び共同学習の実施日の前後に１回ずつ、計２回実施した。具体的には、養護学校との交流及び共同学習を行うに当たって、障害、障害のある子どもや養護学校に対してどのようなイメージを持っているのか、お互いに仲良くしたりするためには交流及び共同学習において何を学べばよいと思うかを把握し、結果をその後の事前学習に反映させた。また、事前学習や交流及び共同学習、事後学習を行ったのちに事後学習の一環として再度児童の意識を把握することで、児童の意識の変化を調査した。

次に、事前事後学習に関しては、筆者が４年生の各学級に事前授業を２時間ずつ実施した。また、事後授業は、４年生の各学級に１時間ずつ実施した。なお、授業の様子は相手校の許可を得て、ビデオカメラで録画した。

４　調査内容

(1) 児童の実態把握

T小学校４年生の児童には、障害観や養護学校の理解、期待する関わり、互いに仲良くするための方法やこの交流及び共同学習を通して何を学べると思うか等について意識調査を行った。また、意識の変化を明らかにするために、交流及び共同学習の実施後にも、自己の振り返りや今後の在り方などに関する意識調査を再度行った。あらかじめ設定した意識調査の項目は以下の通りである。

＜事前学習＞

①　「障害」や「障害がある」とはどういう意味か知っていますか？自分が思っていることや知っていることなど、いくつでも何でも構わないので書いてください。

②　養護学校とはどういう学校か知っていますか？自分が思っていることや知っていることなど何でも構わないので書いてください。

③　障害のある友達と会ったら（交流したら）何をしてみたいですか？いくつでも構わないので書いてください。

④　障害のある友達と一緒に勉強したり仲良くしたりするためにはどうしたらいいと思いますか？自分が思っていることや考えていることなど何でも構わないので書いてください。

⑤　毎年K養護学校の友達と交流学習を行っていますが、交流学習をすることでみなさんはどんなことを勉強する（学ぶ）ことができると思いますか？どんなことでも構わないので書いてください。

＜事後学習＞

①　今回の交流を通して、自分が思った通りのことで構いませんので、「(交流の日に）自分ががんばったこと」と「(交流の日に）養護学校の友達が活躍していたこと」「交流学習を通して理解できたこと（事前学習や事後学習、交流全体を通して)」を書いてください。

②　今回の事前・事後学習を通して、私が一番みなさんに伝えたかったことはどんなことだと思いますか。

③　今回みたいにK養護学校の友達と遊んだり事前事後学習などを通して、障害のある人へのイメージは今までとどのように変わりましたか。どのように変わったかを書いてください。

④　これから、障害のある人にあなたができること・できそうなことはどんなことがありますか。

(2) 児童への事前事後学習

授業内容に関しては、事前に児童に実施した意識調査の内容を踏まえて授業内容を検討・実施した。併せてその中で、身の回りで行われている配慮や障害のある人と関わる上での基本姿勢などについての指導も行った。実際に行った事前事後学習についての内容は、本稿の最後に資料として示す。

５　分析方法

(1) 児童の実態把握

各質問項目の重要な部分をキーワードとして抜き出し、児童の障害に対する意識などを中心に分析した。

(2) 児童への事前事後学習

授業に関しては、ビデオカメラに録画された内容や授業内でのワークシートなどを参考に、児童の発言や教師の発言、指導方法や授業の流れなどを書き出し、教師の発語や問いかけ等は適切であったか、児童の反応はどうであったかなどを中心に分析した。

Ⅲ　結　果

児童への事前の意識調査では、たとえば、障害を身体機能面の不自由さのみで捉えているという記述にあるように、障害に対してマイナスイメージを持っている児童が多かった（表１参照）。

表１　「障害」や「障害がある」とはどういう意味か（N ＝ 56）

回　答	人数（%）
・体が不自由、目が見えない、耳が聞こえない、手足が不自由、ちゃんとしゃべれない、車椅子のこと、話が聞けない遊べない、気持ちが通じない	41（73.2）
・階段や段差のこと、人ではなく住みにくいもの、人のことではないその人にとって不自由なところ	6（10.7）
・（生まれたときから）病気がある人、お腹の中で病気になった	4（ 7.1）
・みんなと違うところがある	1（ 1.8）
・かわいそう	1（ 1.8）
・無回答	3（ 5.4）

そこで、事前学習では児童の意識の転換を図るための効果的な指導はどうあるべきかを検討し、「できない部分ではなく、できる部分に目を向けさせる」「障害の捉え方」などについて、WHOのICF（国際生活機能分類）の考え方を事前学習の中で捉えながら実施した（図１参照）。

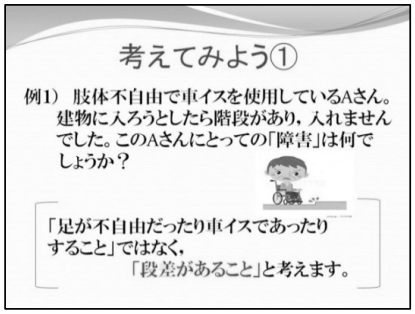


図１　事前学習提示スライド（抜粋）

また、障害のある人に対して肯定的な関わり合いができるように児童の意識の転換を図ることを狙った事前学習を実施した。

次に、実際の交流場面の様子であるが、上記のような事前学習を実施したことで、４年生にとっては初めての交流であったが、実際の交流場面において子どもたち同士が楽しそうに一緒に遊んだり関わったりするといった豊かな関係形成が築けていたことが伺えた。

そして、事後学習においては、事前学習や実際の交流場面の様子を踏まえて、現在社会や身の回りで行われている、自分たちでもできるようなことといったソフト面や、施設設備面といったハード面での配慮を確認したり、障害のある人と関わる上での基本姿勢等について理解を深めたりした（図２・３参照）。事後学習の児童の態度では筆者の指導を受動的に受けていたという態度が見られはしたものの、最終的な事後の意識調査では、できないことではなくできることに着目することと回答した児童が約30％もいたこと、障害はその人にとって不自由なことと回答した児童が約16％もいたというように、プラスのイメージに意識が転換するといった結果を得ることができた（表2参照）。

図２　事後学習提示スライド①（抜粋）

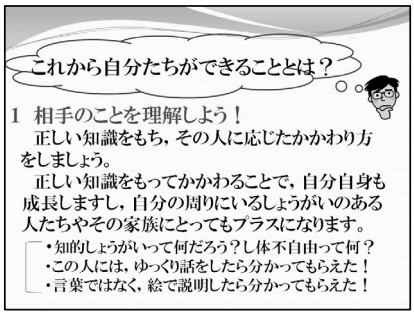


図３　事後学習提示スライド②（抜粋）

表２　交流学習を通して理解できたこと（N ＝ 56）

回　答	人数（%）
・マイナスイメージではなくプラスイメージで見ること、プラス面を見てあげること、障害を悪く考えない養護学校の友達もできることが多いこと	17（30.4）
・楽しかった、理解して頑張った、よく分かった、養護学校は広い	13（23.2）
・障害のある人も勉強など頑張っていること	12（21.4）
・障害をなくすためにいろいろ考えるようになった、障害の意味障害を私たちでも解決できる、障害はその人にとって生きにくいこと	9（16.1）
・ふざけていた点があった	1（ 1.8）
・無回答	4（ 7.1）

Ⅳ　考　察

まず、４年生の児童への障害に関する意識の実態について述べる。表１の児童への意識調査の結果より、児童は障害をマイナスイメージで捉えていたことが明らかになった。これは、筆者の予想通りであったが、これに関して永島・原・平井（2010）は、障害がないと思っている人の教育的課題として、障害特性の理解が不十分であったり、「障害のある人＝不自由な人」と捉えてしまったりするということを述べており、本調査でも同様の結果が得られた。この背景には、今までに適切な障害理解教育を受けてこなかったことや、障害者との接触経験の度合いなどが関係していると考えられる。障害理解教育に関して、海老沢・堀尾・徳田・塙（2000）は、障害に関する適正な認識と理解を促し、結果的に障害者を取り巻く全ての事象におけるポジティブな態度変容をねらいとしていると述べている。また、冨永（2011）は、交流及び共同学習の結果として障害理解がはかられるものが多く、障害についての認識の形成への取り組みが不十分なものが多いことを指摘している。以上のことからも、交流及び共同学習の事前学習として児童の実態を踏まえながら、児童のポジティブな態度変容を目標とした交流及び共同学習の事前事後学習を実施していくことは必要であると考える。

そこで、障害を環境との相互作用で捉えるというICFの障害の捉え方の理解やプラスイメージへの意識の転換を目標に事前学習を行ったところ、児童は障害が環境と相互に関連したり、また障害のある人も工夫をすればできることが増えたりすることといった障害に対する理解が深まったことが伺えた。これは授業で用いたスライド教材がICFの考え方を反映させた内容であったことや、児童に障害について考えさせる時間を設けたことから、児童自身が主体的に障害とは何かを考えたことが要因にあるといえる。

次に実際の交流場面においては、K養護学校の児童とT小学校の児童が交流当日に楽しく関わり合うといった豊かな関係形成を築くことができた。これは、海老沢ら（2000）や富永（2011）も指摘しているように、児童のポジティブな態度変容を目標とした事前学習を実施したことが要因にあると言える。

そして事後学習は、児童の障害への意識をプラスイメージにするという点で効果的であることが明らかになった。なぜなら、表2で示されるように、障害をプラスイメージで見たり障害はその人にとって不自由なことと捉えたりできるようになった児童が多かったことが、その理由として挙げられよう。さらに授業者としても、児童たちの障害に対するポジティブな態度変容が大切であることから（海老沢ら，2000）、自分たちにも障害をなくすことが出来ることに着目させるような内容を取り入れた事後学習を行ったからであり、その効果が表れたことによると推測する。

また、事前事後学習と実際の交流場面との関連性であるが、本研究で事前事後学習を効果的に実践することで、K養護学校の児童とT小学校の児童の両者が楽しく、自主的に学び合うことができていた。このことから交流及び共同学習の交流場面において子どもたち同士の豊かな関係形成が促せるのではないかと考える。それは、事前学習において、子どもたちが障害や障害のある人に対して、肯定的な関わり合いができるように子どもたちの意識の転換をはかることをしなければ、実際の交流場面では子どもたちがネガティブなイメージのまま障害のある子どもたちと関わってしまい、豊かな関係形成が築けない危険性が考えられるからである。さらに、子どもたちが障害に関するネガティブなイメージのまま交流を経験し、事後学習を受けなかったとしたら、子どもたちの障害や障害のある人に対する意識は改善されないままであると言えよう。以上より、交流及び共同学習の実践においては、交流場面のみならず事前事後学習を計画的に行うことが、子どもたちの障害や障害のある人に対して主体的に考えることを促し、障害のある人と適切に関わる上で必要であると考えられる。

本研究では、結果として事前事後学習の有効性は明らかにできたが、まだまだその理解には個人差も大きく、児童全てが理解できていたとは言い難い。したがって、交流及び共同学習の実施時期だけの単発的な指導ではなく、日常的・継続的に

障害についての理解を深めるような学習を行っていく必要があろう。また、本研究で行った事前事後学習の指導内容にとどまらず、障害理解についてさらによりよい効果的な指導方法がないか検討することも課題に挙げられる。そこで本研究より示唆された今後の交流及び共同学習の実践において重要となる留意点について以下に指摘する。

まず、本研究のように、児童の意識の転換がはかれるような事前事後学習を実施することは、交流場面において子どもたちが適切な関わりあいを行える上で重要であると推察する。そのためには、子どもたちの障害に対する意識や認識の現状を把握することが重要であると考える。例えば、本研究で実施した子どもたちへの質問紙による意識調査を授業の前に行うことは有効であったと推測する。さらに子どもたちの実態を基に、それを考慮した事前事後学習を行うことで子どもたちの障害へのネガティブイメージは変容し、障害理解が深まるといえよう。

Ⅴ　おわりに

本研究では、小学校児童を対象とした障害に関する意識調査や事前事後学習の実施等を通して、児童への障害理解教育の必要性や、事前事後学習の内容に関して一定の方向性を示すことができた。とりわけ、事前事後学習が児童の障害に対するイメージの転換や今後の自分の行動を見つめ直すきっかけになったことが成果として挙げられる。本研究の一実践が、今後の交流及び共同学習の在り方に関しての一助になれば有り難い。

謝　辞

意識調査や授業実践にご協力いただいたT小学校の職員・児童の皆様に心より感謝申し上げます。

文　献

海老沢千冬・堀尾雅美・徳田克己・塙和明（2000）大学生が受けてきた障害理解教育の内容．障害理解研究、4、1-10.

藤森善正・八尋薫子（1995）共感と科学的な認識を育てる教育．障害者問題研究、23、151-159.

平井憲継・川原祐介・荒巻愛彦（2011）お互いに協力したり助け合ったりできる児童生徒を育てるための交流及び共同学習の研究．福岡市発達教育センター平成23年度研究報告書、72、1-16

文部科学省（2008）交流及び共同学習共同学習ガイド.

永島諭史・原直子・平井憲継（2010）交流及び共同学習の実施と評価に関する研究－子どもたちがいっしょに活動する学校間交流を目指して－．福岡市発達教育センター平成22年度研究報告書、67、1-18.

内閣府（2004）障害者基本法.

内閣府（2010）障害者制度改革推進会議.

真城知己（2003）「障害理解教育」の授業を考える．文理閣.

冨永光昭（2011）新しい障がい理解教育の創造．福村出版.

資料①

事前学習指導略案

平成24年10月9日（火）10：40～11：25
4年月組・雪組　計56名

本時のねらい
・障害をマイナスイメージではなく、プラスイメージで捉えることができる。
・障害とは何かを、社会的モデルから捉えて理解することができる。

実　際

過程	主な学習活動	指導上の留意点（太字は児童の言葉や様子）
導入 10分	1　養護学校について知る。 ・写真を見る。 ・アンケート結果を見る。 ・スライドで確認する。	・　養護学校の写真を提示し、クイズ形式で何の写真かを考えさせることで養護学校のイメージを持たせるようにする。 **「このバスが通っているのを見たことある」** **「うちの学校にも同じような部屋がある！」** ・　アンケート結果を見せ、養護学校に対するイメージを再確認させる。
展開 25分	2　養護学校の学習の様子を示し、できることや活躍できることが多いことを理解する。 できないことではなく できることに注目する	・　スライドで養護学校のよさや特色などを伝え、イメージとのギャップに気付かせる。 ・　できないことではなく、できることも多いということに気づかせる。 ・　できることが多いことを、実際の写真を見せながら説明していく。 **「絵が上手！」** **「難しい問題ができてすごい！」**
	3　障害の捉え方について知る。 ・アンケート結果を見る。	・　アンケート結果を見せ、障害をマイナスイメージで捉えている児童が多いことに気付かせる。 ・　マイナスイメージで捉えていない意見も併せて紹介する。
終末 10分	4　「障害」とは何かについて考える。 ・考えてみよう① ・どうやったら障害はなくせるか。	・　個人で「障害」とは何かについてイラスト等を見ながら考える。 **「階段が障害！」** **「段差が障害！」** ・　障害とはその人自身にあることではなく、周りとの環境がうまくいっていないことであることをイメージさせる。 ・　どうやったら障害をなくせるかを考えさせることで、自分たちにもできることがあることに気付かせる。
	5　今日のまとめと次時の予告をする。	・　障害をマイナスイメージではなくプラスイメージでとらえることを確認する。

資料②

事前学習指導略案

平成 24 年 10 月 11 日（木）10：40～11：25
4 年月組・雪組　計 56 名

実　際

過程	主な学習活動	指導上の留意点（太字は児童の言葉や様子）
導入 10分	1　前時の復習をする。 ・養護学校とは？ ・マイナスイメージではなくプラスイメージで見る。 ・障害の捉え方（例 1）	・　前時に学習したことを想起させるために、穴埋め形式でプリントに記入させる。 ・　前時で使ったスライド等も使いながら丁寧に確認していくようにする。 **「プラスイメージ」** **「できることをたくさん見る」** **「段差が障害」**
展開 25分	2 「障害」とは何かについて考える。 ・考えてみよう② ・どうやったら障害はなくせるか。	・　前時で学習した障害の捉え方を確認しながら考えさせるようにする。 ・　障害をマイナスイメージではなくプラスイメージで捉えながら考えさせるようにする。 **「何をすればいいか分からないこと」** **「周りの人が何をすればいいか教えないこと」**
	3　養護学校での支援や配慮について知る。 ・見通しの持たせ方 ・環境面の配慮 ・言葉かけ　　など	・　養護学校での様子を、実際の写真や実際の教具などを使いながら伝えるようにする。 **初めて見る教具や、養護学校の配慮に驚いている様子であった。**
	4　グループで話し合い活動をする。 みなさんができることやできそうなことを考えてみましょう。	・　グループで考えることで、いろいろな視点から考えることができるようにする。 ・　話し合いが進んでいないグループには教師が入って助言等を行う。
終末 10分	5　話し合ったことを発表する。	・　グループで出た意見を発表させ、いろいろな意見があることに気付かせる。 **「スロープを付ける」** **「手助けをする」** **「教えてあげる」**
	6　障害の捉え方についてまとめる。	・　障害とは、その人と周りの環境がうまくいっていない状態であることを伝え、自分たちでも障害をなくすことができることも伝える。

資料③

事後学習指導略案

平成24年10月24日10：40～11：25

4年月組・雪組　計56名

本時のねらい

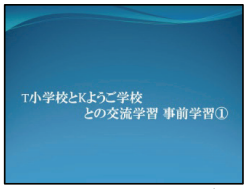
・身の回りや社会全体で行われている配慮等に気づき、理解することができる。

・今後自分たちができることを理解し、意識することができる。

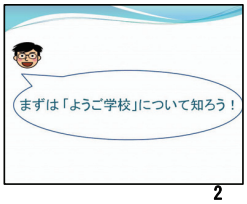
実　際

過程	主な学習活動	指導上の留意点（太字は児童の言葉や様子）
導入 10分	1　事前学習の復習をする。 ・障害とは？	・　事前学習の振り返りをすることで障害についての捉え方を思い出させる。 **「環境」という発言も聞かれた。**
	2　先日の交流学習を思い出す。	・　写真で先日の交流学習のことを思い出し、どんなことをしたか、どんな活動があったかを思い出させる。 **「すごかったね」** **「楽しかった」** **「僕だ、私だ」**
展開 25分	3　養護学校児童のいいところ（宿題）を確認する。	・　宿題としていた「いいところ探し」の結果を確認し、一人一人がいいところ、プラス面を捉えていたことを押さえるようにする。 ・　宿題のコメントも用いながら、プラス面に注目することで、障害が目立たなくなる、見えにくくなることに着目させる。
	4　身の回りや社会全体で行われている配慮について知る。 ・身の回りで行われている配慮（自分たちでもできること） ・社会全体で行われている配慮（大人や社会が取り組むべきこと）	・　事前学習の話し合い活動で出た意見も用いながら、自分たちができることと、社会全体で行っていくことがあることに気付かせる。 ・　写真やイラストを用いながら、実際に行われている配慮を知ったり、理解したりさせる。 **「見たことがある」** **「知っている」**
終末 10分	5　自分たちができることについて知る。 ・相手のことを理解する ・よさを見つけて尊重する ・必要な手助けや配慮を行う	・　これから自分たちができることについて知り、自分たちでもできることが多いことを理解させる。 ・　マイナスイメージではなくプラスイメージで見ることを再確認させる。 ・　自分たちができることを行うことで、自分たちでも障害をなくすことができることを再確認させる。

資料④　事前学習用提示スライド教材

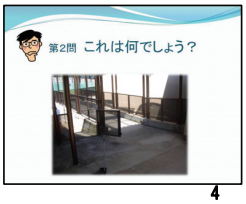


1



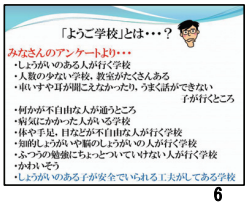
2

3

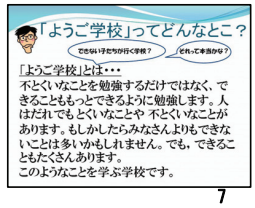


4

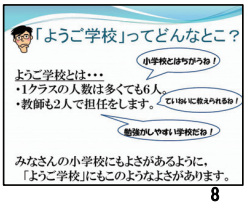
5



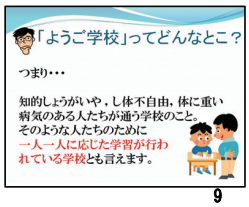
6



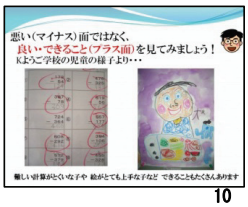
7



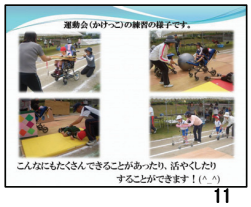
8



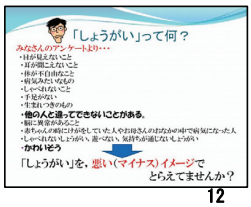
9



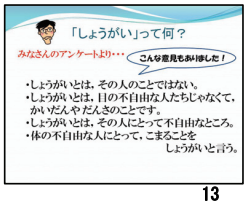
10



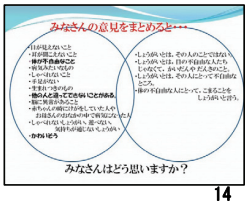
11



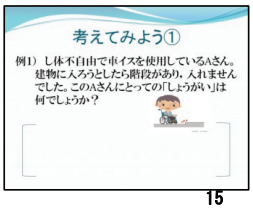
12



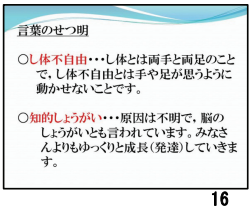
13



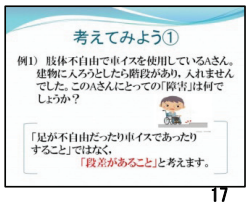
14



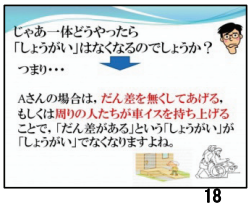
15



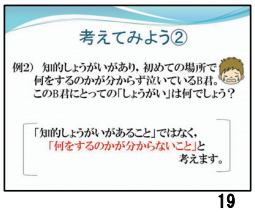
16



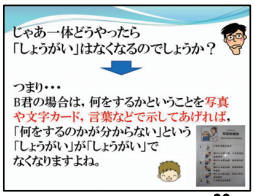
17



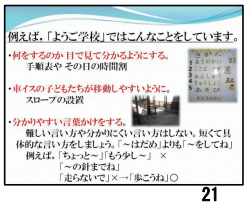
18



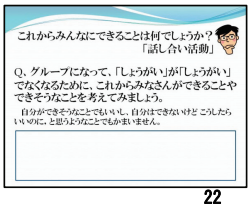
19



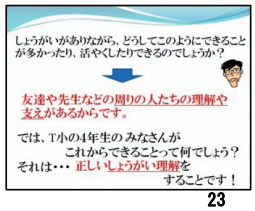
20



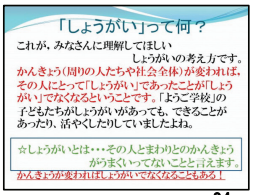
21



22

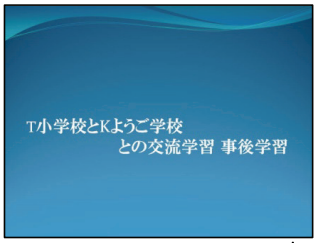


23

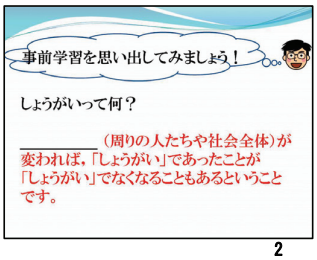


24

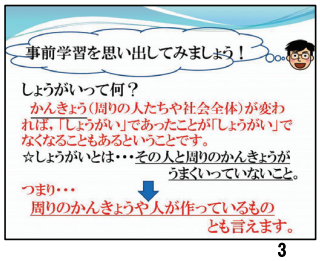
資料⑤　事後学習用提示スライド教材



1



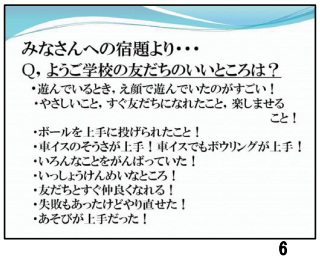
2



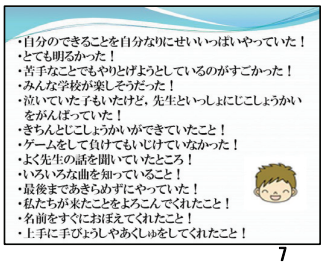
3

4

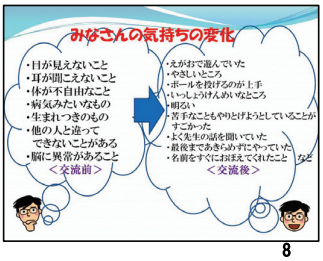
5



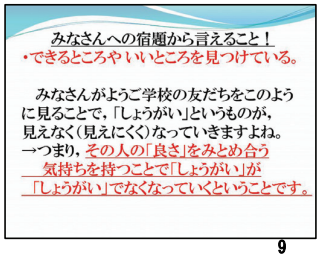
6



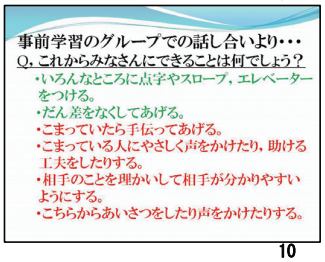
7



8

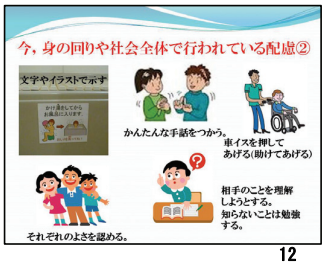


9

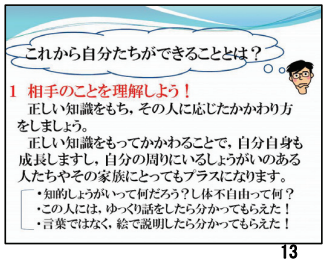


10

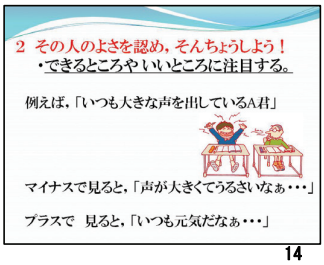
11



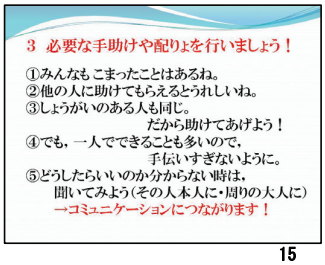
12



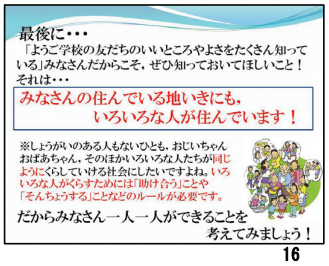
13



14



15



16